

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立御影中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

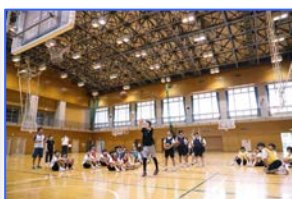
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2020年1月29日 (水)

■ク ラ ス : 2年4組 (34名)、2年5組 (34名)

■オリンピアン : 木田 知宏 先生 (射撃/ライフル射撃) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックの目的や意義、価値と一緒に楽しく考えてほしいと話す。運動の時間の約束事として、「一生懸命取り組む」「班やクラスの皆で互いに相談し協力し合う」「フェアプレー精神を持ち、話をよく聞いてルールを守る」ことを意識して取り組んでほしいと伝えた。
- ・模型ピストルを見せ射撃競技について説明した後、準備体操として、ストレッチ、じゃんけん勝ち抜けを行った。

3. 主運動



- ・8の字跳び (90秒×3回) を引っかけても続きから数えるとして2班毎3チームで実施。
- ・各回毎に作戦タイムを設け、回数を増やすための作戦を考える。
- ・終了後、作戦タイムで活発に意見を出し合って工夫した結果、面白い作戦を立てて取り組むことができていたと生徒を称えた。

4. まとめ



- ・運動の時間を通して、各々が出した意見を否定せず皆で考え、整理してチャレンジできていた。人と協力し、工夫すること、何事もポジティブに考えることは普段の生活においても大切なことである。次の座学ではオリンピックバリューについて詳しく学んでいきたいと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックが開催される目的やその価値について学んでいきたいと授業の目的を確認。出場したアトランタ大会の映像を見せて射撃競技を紹介。
- ・オリンピックボルやクーベルタンについて解説し、自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて説明。「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす」「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する、チームワーク」「リスペクト＝敬意/尊重、ルールを守る、フェアプレー」

3. グループワーク



発問：夢や目標を班で共有しその目標を達成するために何ができるか、取り組みたいことや意識したいことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

- ①社会人野球で都市対抗野球に出場する ②アイドルグループに入る ③陸上競技で世界で通用する選手になる ④カルタ大会で優勝する
- 「①誰よりもランニングや素振りをする」「②ダンスと歌の練習」「③Never Give Up」「④カルタを100覚える」（エクセレンス）
- 「①仲間を大切に」「②コンビを組む」「③仲間と協力する」「④フォローし合う」（フレンドシップ）
- 「①両親やコーチに感謝する」「②先輩に敬意を払う」「③コーチに感謝する」「④相手に感謝する」（リスペクト）

4. まとめ



・オリンピックバリューを意識して生活することで、夢や目標の実現に近付くことができる。木田先生は「明るい努力」をモットーに、つらさを乗り越えた先に楽しさがある、と自分に言い聞かせながら練習に励んできた。皆も自分のモットーを貫き、充実した生活を送ってほしい。射撃競技のPR映像を見せ、東京2020大会には木田先生の後輩や、世界で活躍している選手も出場する。ぜひ興味を持って見てほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 2020年1月29日 (水) 30日 (木)
- ク ラ ス : 2年2組 (34名)、2年6組 (35名)
- オリンピアン : 山本 静香 先生 (バドミントン) 【出場オリンピック/アテネ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (5時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介の後、今日の授業を通してオリンピックを身近に感じ、オリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について知ってほしいと授業の目的を確認。運動の時間は「全力で取り組む」「班の皆で協力する」「ルールを守る」ことを約束事として取り組んでほしいと伝える。
- ・代表生徒と山本先生がバドミントン競技のラリーを実施した後、準備体操に移る。ストレッチとシャトル取りゲームを実施。

3. 主運動



- ・シャトル入れラリー (90秒×4回) を6班対抗で実施。スタートラインと反対側でカゴを持ち、シャトルを1人1つずつ持って走り、既定ラインからカゴに投げ入れる。制限時間内にいくつ入れることができるかを競う。3、4回目は、卓球・テニス・バドミントンのラケットいずれかを使用するルールに変更。
- ・使用する道具も含め、皆しっかりと作戦を考え、取り組むことができたと称える。

4. まとめ



- ・この運動の時間を通して皆一生懸命に取り組み、冒頭に伝えた3つの約束事「全力で取り組む」「チームで協力」「ルールを守る」を意識して守っていた。次の座学の時間では、経験を基にオリンピックバリューについて深く掘り下げて説明していくと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（6時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながらバドミントン競技を紹介し、オリンピックシンボルについて解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて説明。「エクセレンス＝卓越、一生懸命、挑戦、ベストを尽くす、1日1日努力する」「フレンドシップ＝友情、チームワーク、コミュニケーション、同期の友人や職場の人の協力」「リスペクト＝敬意/尊重、感謝、周りの人の支え、環境に感謝、会社の人たちの応援、オリンピックレースで共に戦った先輩」

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはまることを考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

- 「努力は大切」「何事も一生懸命に行く」「諦めない心」「挑戦する」「継続する」「勝てない相手でも勝とうとする心を持つ」（エクセレンス）
- 「チームワークを大切にする」「声かけを行う」「皆で喜びあう」「一致団結」「相手を思いやってプレイする」「絆が生まれた」（フレンドシップ）
- 「感謝の気持ちを忘れない」「支え合う」「周りの人がいるからこそ夢に立ち向かえる」「道具に感謝」「お互いを応援しあう」（リスペクト）

4. まとめ



- ・バドミントンを通してさまざまな経験をしたことが今の自分につながっている。皆もこれから大人になる過程で、たくさんの経験をすると思うが、苦しくなった時こそオリンピックバリューを思い出し、自分の頑張りや仲間の応援を力に変えて乗り越えてほしい。
- ・応援もオリンピックの参加方法の一つである。東京2020大会ではバドミントン競技をはじめ様々な競技を応援してほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2020年1月30日 (木)

■ク ラ ス : 2年1組 (34名)、2年3組 (35名)

■オリンピアン : 脇田 寿雄 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/カルガリー大会、アルベールビル大会、リレハンメル大会、長野大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・ボブスレー競技でオリンピックに出場したと自己紹介。今日の授業を通して経験によって学ぶことのできる「経験知」の大切さを学んでもらいたいと話す。オリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について説明し、運動の時間では、「お互いを理解する」、相手を「思いやり」、皆で「協力」することを意識して取り組んでほしいと話し、クラス全員で読み上げ、準備体操に移る。
- ・準備体操として、ストレッチ、人間知恵の輪を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・ボブスレーリレー(1組 : 全2回、3組 : 全3回)を6班対抗で実施。班毎に1列に連なり、最後尾の人から、前の人の間をくぐって一番前に付き、進んでいくリレー。2周したらゴールラインまで全員で走り、全員がゴールするまでのタイムを競う。作戦タイムを設け、より早くゴールするための作戦を考える。
- ・失敗を次の挑戦の糧とし、果敢に取り組むことができたことを称えた。

4. まとめ



- ・工夫したり、他の人を思いやりたりすることは、日常生活の中でも大切なことなので、物事を考える時のヒントにしてほしい。ルールを守ることや、楽しみながら色々なことにチャレンジすることを大切にしてほしいと話す。オリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について、次の座学の授業で深く掘り下げて説明すると伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・スライドや映像を見せながら、ボブスレー競技について解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、努力する、諦めない」「フレンドシップ＝友情、仲間協力する」「リスペクト＝敬意/尊重、思いやり、感謝」と解説。自身の競技経験や社会人経験を基にオリンピックバリューについて紹介したいと授業の目的を確認。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：3つのオリンピックバリューに対して、大いなる目標と指標をワークシートに書き、班の仲間に発表しよう伝え個人ワーク、グループワークを実施。
- 発表：個人で意見を発表。(抜粋、順不同)※3組のみ発表
- 「目標／チアダンスの全国大会で入賞すること、指標／毎日継続して練習すること」(エクセレンス)
 - 「目標／誰にでも親切にする、指標／気を遣って接する」(フレンドシップ)
 - 「目標／思いやりをもつ、指標／些細なことにも感謝する」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューの他にも大切な言葉があると話し3つの言葉を紹介。「Equity」(公平性、同じ評価をする)「Inclusion」(最大限にパフォーマンスを発揮すること)「Integrity」(誠実、高潔)。人は誰でも目を向けられ、耳を傾けられ、大切にされる権利がある。誰でもやがていを感じられるような環境を作り、誠実さを持って行動することが大切。勉強や部活動に全力を尽くすことが将来の成長につながる。1人で解決できないことは仲間に協力してもらい、果敢に取り組んでほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 集合写真
2年5組



2年6組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



2年6組



■ 修了証贈呈

